

平成 22 年度 理研バイオリソースセンター レビューA 委員会 諮問事項について
生体応答情報技術開発サブチーム

1. 各室・チームは科学的に大きな意義のある業績及び社会的に波及効果の大きな業績を挙げているか。

総評：骨代謝に異常が出たから良いものの、もう少し入念な計画が必要と思われる。ただし、広がりをもつ成果は出ている。小さなグループとしてはよく頑張っている。

- ・ 科学的な意義のある知見を得ている点及び共同研究により優れた業績が発表されている点は評価できる。しかし、チームとして研究業績に重点を置くのであれば、レベルの高い論文発表等より高い業績が望まれる。
- ・ NF-KB family KO mice の解析結果について、peer review を経た論文発表により、成果を示すことが必要である。また、これらのマウスの提供について、発表での数は非常に多いと思われたが、その共同研究の在り方について、具体的に理解できない。論文公表が望まれる。
- ・ 骨粗しょう症のモデルと考えられる変異マウスとして、relA-KO マウスが同定されたことは面白い。しかし、これがヒトのモデルとしてどこまで発展するかは未知数と思われる。この2年間での明らかな業績は見当たらない。

2. 各室・チームの運営にかかわる Plan-Do-Check-Action (PDCA) サイクルは機能しているか。

A. 前回の BRAC、リソース検討委員会及びセンター内自己点検・評価の指摘事項への対応状況について。

総評：BRAC、レビュー委員会及びセンター内自己点検・評価の指摘事項への対応は説明され、評価の指摘事項によく対応していると思われる。しかし、実体が伴っているのかは判断しにくい面がある。

- ・ 前回のレビュー委員会で指摘された、他チーム、他研究機関との連携は推進されたと思われる。PDCA サイクルは機能していると思われる。
- ・ 一定の成果は出ているが、phenotype の Initial な解析に努めて、更なる特性解析を種々な KO マウスの組み合わせでやるべきではないか。

B. 今中期計画の残りの2年間の方針及び実施計画について

総評：今まで通りの計画と思われる。3つのミッションを全て達成することは難しいと思われる。少し絞る必要がある。立ち位置を検討した方が良いと思われる。

- ・ 現在大きな研究成果が得られつつあり、連携を強化しながら、これまで得られた知見を論文発表することを第一の目標に努力して欲しい。
- ・ 責任著者として大きな成果が発表できる様に努力して欲しい。
- ・ マイルストーンを明確に設定することも考えた方が良いのではないか。

- ・ 計画性という点では、ややわかりにくい印象がある。

3. 各室・チームのセンター内外における連携活動及び国際連携の促進について(特筆する活動・成果があればご記入お願いいたします)。

- ・ マウスの提供は国内、国外ともに大幅に増加しており、連携は促進されている。特にリソースの利用拡大は、努力が実績につながっており、評価したい。今後理研内、特に免疫センター等での連携研究を促進する必要がある。
- ・ NF- κ BファミリーKOマウスの提供について精力的に行われている。そのことは、共同研究に基づく発表論文からもうかがえる。
- ・ 他の部門、チームとの連携については、説明がなかった。マウスの提供部門への依頼のみである。

4. その他コメントがございましたらご記入お願いいたします。

- ・ リソース整備について貢献の努力が期待される。
- ・ リソースとして特徴があり面白い。

以上